

水色通信 2012.12 vol.16



【お菜洗い】

霜が降りて吐く息が白くなってくると「野沢菜漬け」作りが最盛期を迎えます。

最も大変なのは「お菜洗い」ではないでしょうか？水道水では冷たいし、もったいない！辰野町の荒神山では温泉を引湯し、お菜洗いに利用できるようになっています。安曇野市では湧水を利用しています。寒そうに腰を丸めた姿に、長野の厳しい冬を想像させられます。

[撮影：辰野町]

信州の食文化



やまっちそば



秋から冬のおいしいものと言えば「長芋」があがります。長野県は全国3位のシェアを誇り、中信では山形村の特産品として知られています。「やまっちそば」は、そばの上に細長く切った長芋をのせたそばで、腰のあるそばと長芋のシャキシャキとした食感が、いいバランスでおいしいです。根橋屋さんのやまっちそばには「焼き味噌」が添えられており、そばつゆに味噌を少しずつ溶かして食べると、一風変わった味になります。

「やまっち」は山形村のゆるキャラで、一昨年の11月に誕生した売り出し中のキャラクターです。



活断層と地震



地層や岩盤に力が加わって割れ、ずれ動いたものを断層といい、今後も動く可能性があるものを『活断層』と呼びます。岩盤が割れるときには地震が発生します。言い換えれば、活断層は今後も地震が発生する可能性がある場所であるともいえます。

長野県には日本列島を縦断する『中央構造線』や、列島を胴切る『糸魚川－静岡構造線』といった大断層帯が交差しています。最近の地質時代に日本アルプスなどの山地が急激に隆起し、特に盆地との境界付近や盆地内には、たくさんの活断層が形成されています。

諏訪大社の御柱祭で有名な上社の木落とし坂は、糸魚川－静岡構造線活断層系の一部をなす『茅野断層』の活動によって形成された段差地形です(写真1)。松本盆地南東縁の中山丘陵を通る『牛伏寺断層』は、2011年3月の東北地方太平洋沖地震の影響によって、地震の発生する可能性が上昇したとも言われています。同地震の直後に発生した長野県北部地震(M6.7)や、6月の松本地震(M5.4)も、その誘発地震である可能性が指摘されています。



写真-1：茅野断層の断層崖

活断層の調査としては、地質構造調査やGPS等を用いた地殻歪の調査などが行われていますが、その一つとして県内各地でトレンチ調査が行われています。これは、活断層の通過地点を横断して深さ数m程度の溝(トレンチ)を掘り、地層のずれを詳細に観察したり、試料を採取して年代測定を行ったりして活断層の活動履歴を明らかにし、今後の地震発生の予測に役立てるものです。2012年8月に実施された『岡谷断層』の調査では、約7,000年前以降に少なくとも4回の活動履歴が認められ、発生周期からみると、そろそろ活動する可能性もあると考えられるそうです(写真2：(独)産業技術総合研究所の現地説明会)。



写真-2：岡谷断層のトレンチ調査



写真-3：左上一右下の境界面が主断層面

活断層の位置や過去の災害の記録などについては、ホームページや書籍、地図類等で確認することができます。身近な土地の情報を集め、地震への備えに役立てたいものですね。

《参考資料》

- ・塚原弘昭(2011)長野県の地震入門。しなのき書房
- ・信濃毎日新聞社編集局(1998)信州の活断層を歩く。信濃毎日新聞社
- ・株式会社郷土出版社(2012)写真記録 長野県の災害
- ・2011松本地震(H23/6/30長野県中部の地震)の被害地図－Google マップ
- ・都市圏活断層図－国土地理院HP
- ・「糸魚川－静岡構造線」活断層情報ステーション－名古屋大学HP





曳家



最近、松本市内で大がかりな曳家を実施されました。

曳家とは、家を解体せずそのままの形で所定の場所に移動する工事です。場所は、松本駅から西へ500m、渚ライフサイト内で国道19号沿いの松本中心部。国道の拡幅に伴い、2棟を数か月かけて、2回直角に曲がりながら200m動かしていました。

一般的な曳家費用は新築の1/2~1/3位ですが、これだけ長距離移動だと、もっと高額かもしれません。建築の確認申請は新築と同じように必要で、住所も変わります。



建屋を下で受けて架台にセット完了。
これをウインチで引っ張る。
家屋はガラス張りが多く、変形に弱い構造。



下受け(アンダーピニング)の様子。
鉄のレールや鉄のコロを利用している。



駐車場を移動中。
動き出せば1日数十メートル進む。



目的地、左の蔵は移動済のもの。
基礎は高さが1.5m程立ち上がっていて、水害に備えたものかもしれない。



井戸のお話



～地下水の入り口～

井戸は掘削した後、鉄管を入れて仕上げます。この際、井戸内に地下水を入れるため、隙間の空いた鉄管を使用します。この鉄管をスクリーンと呼び、ここが「地下水の入り口」になります。最近巻き線型スクリーン（写真参照）が多く使われます。このスクリーンは開口率（隙間の比率）が20%以上取れるため、地下水の流入速度を遅くし井内への砂の流入を防ぎます。

いつも見えない井戸の中が少し想像できたのではないのでしょうか？



ご当地検定

近頃、「ご当地検定」という言葉を耳にします。中信地域では、安曇野検定、松本検定が定着してきました。検定は市役所が主体に実施しており、安曇野市では講座を開きその内容について出題し、松本市は公式ガイドブックがあり、そこから80%が出題されるようです。

筆者の独断で過去問を出題しますので、Let's challenge!! (答えはページの下にあります)

第5回 松本検定 上級コース 試験問題

第20問 国土交通省の「甞る水100選」に選ばれている川は？
①女鳥羽川 ②梓川 ③大門沢川 ④牛伏寺

第63問 源智の井戸の由来となった、河辺源智は何家の家臣だった？
①石川家 ②戸田家 ③掘田家 ④小笠原家



第1回 安曇野検定 一般の部 試験問題

第58問 安曇野には多くの用水が引かれているが、縦堰に対する横堰の説明として、適切でないものは？
①水量が多い ②水量がほぼ一定である ③水温が低い ④流れがゆっくりしている

第67問 豊科地域の東山山地、大口沢の土採場(どとりば)から、その動物の仲間としては世界最古の化石が発見されているが、その動物とは？
①アシカ ②クジラ ③イルカ ④アザラシ

発行元

 **株式会社 サクセン**

季刊 水色通信 編集部

〒390-0833 長野県松本市双葉6番1号
TEL:0263-25-1802(代表) FAX:0263-25-9642(代表)
<http://www.sakusen.co.jp/>

サクセンでは、井戸・温泉の掘削やメンテナンスをはじめ、地質調査・土壌汚染調査などを業務としております。

また、家庭用井戸などの身近なお悩みにも対応いたします。是非一度、ホームページをご覧ください。

